

玄同放言

卷四

15  
231  
4



門 5  
291  
84



玄同放言第二集目錄

○卷三,上 人事部二

第二十九 姓名稱謂

真人 連 朝臣 大臣 宿衿 大連 道師 間人 首臣 二頁  
 直無姓氏 村主 縣主 大神氏 人麻呂 平氏 姓和訓  
 皇別藤氏 源氏 抄本氏 大神氏 人麻呂 平氏 姓和訓  
 同名異人 取禰佛名号 取書名 屎為名 緣氏取為  
 六親為名 無等類名 賜惡名 稱呼謬為罪人  
 不祥之名 取父祖片名 諱名之制 丙景世代 手兒名  
 恣取官名 嗚呼者

第三十 宋陳彭年綽號

第三十一 久米仙 附吉野山賽仙

○卷三,中 人事部三

第三十二 壽算

武內宿衿 木兔宿衿 上古聖壽 唐山人壽  
 僧常輝 僧尊鏡 道守東人 尾張濱主  
 村上刀自女 右府藤原實資 從一位倫子 僧正明尊  
 從七位源氏 北山准后 老嫗置目 左府多治比島  
 文室淨三 衛武公 志賀隨應 渡邊幸菴  
 江村專齋 百姓滿平 僧禪修 七兵衛

玄同放言卷三,上 題目

仙鶴堂梓

尼清圓 唐九老 尼妙海 天朝前後尚書會  
壽之上中下 不惑知命 唯陽五老 智昌院並真中氏  
志賀隨應並長命寺善修真蹟各一頁附出 毘騫國長頭王 追加麻々局  
追加石川文山

第三十三 尼妙圓

附 妙圓石地藏圖

第三十四

藤原經房

第三十五 小松內大臣

平重衡並北條時賴 微行餘論附

第三十六

狄青錢卜

卷三下

人事部四

第三十七 渡江達磨

和漢智戰附

第三十八

仁和寺兒法師

第三十九 藏法師

水滸傳像贊附

第四十

白幽子異傳

第四十一 詰金聖歎

水滸傳像贊附

第四十二

酒顛童子

第三十

源範賴 東光寺蒲櫻 並古碑附

別錄

前集補遺正謔 共八箇條

第二集三卷一十六編

附錄追攷正謔共十二條

寫字二頁

畫圖五種其第二十九編以上於前集總目錄中可見也

玄同放言第二集目錄終

追加引書目錄

神皇正統記

皇統紹運錄

公卿補任

江家次第

愚管鈔

賊盜律

日本逸史

中右記

聖德太子傳曆

古語拾遺

保曆間記

江濃記

甲陽軍鑑

將軍譜

東國太平記

新編東國記

本朝三國志

竹取物語

落窪物語

袋草子

徒然草

今昔物語

古今著聞集

奇異雜談集

鉢加通伎草紙

下學集

書言字考

山州名迹志

雍州府志

撰陽群談

宇比麻奈備

翁草 其蛸菴杜口

雪齋紀事

老人雜話

幸菴對話記

久左牟須備

夜船閑話

櫻陰腐談

常山樓筆餘

姓氏解

東海談

四季草

好古日錄

五加都麻

桂林漫錄

畸人傳 續畸人傳 共二部

河社

神社考

元亨釋書

念佛三心要集

仙鶴堂梓

玄同放言卷三上

追加引書目

百番謡 殺生石 俊寛 白樂天 共三本

禮記 或大學

北史

孔子家語

韓非子

劉向列仙傳

漢武內傳

述異記

楚辭後語

列仙全傳

西湖遊覽志

清張夷國朝画徵錄

唐高僧傳

祖庭事苑

僧祇律

雍正版水滸傳

水滸傳解 第二編抄譯 共三二部

酒顛童子繪卷

晉書

隋書

列子

楊子法言

劉向說苑

阮籍莊論

唐柳河東集 一名柳文

氏族博考

日知錄

人海記

佛說仁王經

唐續高僧傳

無門関

三國志演義

繡刺忠義水滸傳

封神演義

通計一百八部前集所錄引書一百九十部共二百九十八部

東岡舎遺稿

宋書

宋史

墨子

博物志

穆天子傳

袁中郎廣莊 出秘笈

攷古質疑

宛委餘編 出四部稿

續文獻通考

智囊全集

唐梵千字文

宋高僧傳

大智度論

順治版水滸傳

水滸傳画像 二本

通俗水滸傳

玄同放言卷之三上 第三本

荏土 瀧澤解瑣言甫著

第廿九人事

姓名稱謂

近曾姓氏を略解せしめ、吉田兼右卿の官職難義も氏のよりあり、白石翁の人名考も訓話の辨あり、安齋翁の秋草 上巻、亦姓名の編あり、今古此差別を論たり、その他、字野 俗字三平、雅字明霞、近江人、が姓氏解 一名弁、小八、和漢の氏族を併論せり、異朝のより、精細あり、、天朝の氏族を釋せり、漢 あろりてせしめ、のり、、亦多あり、かれば、その言多あり、と、訛謬 あままり、、その善 うま、を疎漏 とろ、かほ、姓源 せいげん、を究 きま、る由あり、余も亦前版燕石雜誌、名字のよりと論 し、、今、い、思、は、浅 あ、り、且、悞 あやま、る、と、な、ま、あ、ら、ん、と、い、ふ、べ、く、也、

ゆ、て、考、證 かうしやう、を、前、中、の、考、證 かうしやう、と、ち、を、復 ま、し、め、り、と、い、ふ、べ、く、也、

天朝の萬姓、その淵源 えんげん、あり、と、い、ふ、と、神紀 かみき、を、考 あ、る、と、或 ある、ハ、神跡 かみせき、より、知 し、ら、る、わ、り、





説此辨の篇  
其在家則父  
為陽而子為  
陰其在國則  
君為陽而臣  
為陰その義  
あつて相合り

如の如く大和画師黄書画師百濟画師の數姓あり第六臣オの如く  
君を神とて臣を鬼とてきとて通へるオの如く陽とてみと横音通へるオ  
あつて如く陰之蓋君臣尊卑の等あり使主オも亦同訓オあつて君臣佐使の意を  
借りし使主と臣即臣之訓義右今第七連ウラシの守護オ守護此オあり大連を  
大守なりむともと通へるウラシの反りオありとこの姓源ハ大已貴神あり  
大已貴ウラシ又作大物主大國主古事記作天ウラシハ猶大連とウラシあり  
この神あり天下を管領ウラシあり大守の義ウラシあり後世親王の任國を大守と  
唱へ諸臣の守なりめ大守を冠ウラシとて許さむウラシを職これの由なり  
大連ハその仕重く連ハその姓高貴あり後世の制度ハ國守ハ五位六位の人これ  
任せしむとてウラシ又姓の連ハ後より職の大連ハ先ウラシ大連ハ大已貴ウラシあり  
のウラシハ連ハ人名あり天智紀ハ大臣ウラシ歟我臣連子あり天武紀ハ馬飼  
部造連あり是あり允恭天皇の御宇より以來數朝大臣と大連を執政の

美稱ウラシありウラシ連とのウラシハ守護の義ハ大連と同一ウラシの故ハ天武紀  
制連の姓ハ迥ハ宿禰の下あり大已貴少彦名を姓源とせば連の姓ハ宿禰の上  
ありウラシ理りありウラシもまた大守と守護の等あればあり物主少那ウラシ後  
借る連比屬續の意あり秀實ハ連帥の連として大連ハ武官大臣を文官  
ありウラシ文武の差別ハウラシ連帥の辨ハ字義ハ是あり又前輩の  
説ハ連ハ村主ありとあり甚ハ評問ありウラシ大國主命をオホムラヌミ  
よの非あり大物主ハ大國主ハウラシあつて明證ハ新撰姓氏錄ハ大物主  
命と書きウラシ壁ハ姓の村主の主をりウラシと訓ウラシ大國主の主もウラシ音多をウラシ連  
ハ續ハ理りありウラシと訓ウラシ大物主ハ物主ハむと横音亦あり國主ハあり  
大を扱わるとあり大物主ハ大國主の畧辭ハあり大守ハ大守ハ大國主の加とあり  
姓氏錄第十三卷ハ大國主ハ大國主ハあり大國主ハ大國主ハあり大國主命亦名大  
穴牟遲命亦名謂輩原色許男神とありこれハ由ウラシ大國主と大穴牟遲ハ訓異あり  
大物主命ハ大國主の假名ウラシ又按ウラシ大臣ハ成務天皇の御宇より  
舒明皇極の御宇ありウラシ孝德天皇ウラシ左右ハ  
大臣を置ウラシ後ハ便宜ハ隨ウラシ漢音ハ呼ウラシ和名鈔ウラシ

大臣と於保伊萬宇智岐美と訓し、これとも正し紀和名ありとハハの何れか  
 無と萬と通へり。志と智と横音亦通へり。萬と音便おんべんと萬宇と引紀羅を省たる  
 べく、玉加都麻於保伊萬宇智岐美ハ大連公と和訓おたはせし似たり。麻開都岐美  
 万宇智の義ハハの詳なり。大臣の和名ありと疑ふべし。和名鈔  
 大臣を於保萬豆利古止乃於保萬豆利古止乃於保伊毛乃萬宇須豆加  
 佐と訓し、和訓を旨とせし世ありし。唱やうと恒の稱呼は便ありん  
 あり。前輩も職名の和訓ハ。又按まると真人ハ姓あり前ハ氏あり。又ハ名あり。  
 後ハつげらるるべしと云へり。又按まると真人ハ姓あり前ハ氏あり。又ハ名あり。  
 用明天皇の皇后を穴穂部間人皇女とありし。書紀用明天皇元年及推古天皇  
 元年夏四月の條下はるる。穴穂部ハこの乳母の姓を取て、間人ハ皇后の乳母なり。又  
 推古紀ハ間人連盛益といふ者あり。十八年冬十月新羅任那の使入京の條下はるる。間人ハ氏之連ハ  
 姓ハ孝德紀ハ間人連老あり。五年春正月の條下はるる。間人連ハ姓氏ハ老ハ名之この三間人ハ  
 天武天皇真人の姓を作ると皇親ハ賜と己前あり。是より下ハ天武紀ハ粟田

朝臣真人あり。十四年五月の粟田朝臣ハ姓氏ハ真人ハ名あり。當時天皇の乳母と  
 天淳中原瀛真人とありし。あれども當朝真人の姓と制作し、これとも皇  
 親ハ賜と且その臣下ハ真人と名とつてあり。この時ハ至尊の乳母と避  
 ふとハ制度あり。この後續紀ハ孝謙紀ハ雀部朝臣真人あり。天平勝宝  
 三年七月の條下ハ雀部朝臣ハ姓氏ハ真人ハ名。是のまはる。新撰姓氏錄第二卷第  
 六卷ハ間人宿禰間人造の姓とあり。間人ハ氏ハ宿禰造ハ姓あり。和名鈔  
 國郡丹後國竹野郡の郷名ハ間人あり。訓詁右の間人を刻本の書紀及  
 姓氏錄和名鈔ハシト傍訓ハシト。これともマヒトと讀べし。ゆるくら  
 人名ハ間ノ字とハシと讀る例ナシ。譬ハ天戸間見命天津彦根命の子あり。御間城  
 入彦五十瓊殖尊崇神天皇。まへハ間ノ字をまハシと讀る。まハシハ上略之  
 姓ハ真人とあり。推古ハ間人ハ宿禰の假字あり。又按まると宿禰ハ亦人名ハ  
 我ハ姓氏錄ハ大足尼命ハ高麗命十二世の後ありとあり。只是のまはる。允恭







二月庚午。先是紀伊守從五位下伴宿祢龍男與國造紀宿  
 禰高繼不慙云云このと死に詔を國造非國司解却之色而輒  
 解却矣云云と譴をせ玉ひりり今大少領ハ國司ハ隸のあらざれば  
 亦不征於司徒といふのよ近し。ねらふより。國造と伴造との威柄の同く  
 ぶると知まへ。大約造ハ國造ガ本ことハ美稱を取。姓中も命られ。姓の和訓  
 解のあは。拾芥鈔上。姓尸と書玉。又無尸姓をのりもんを。尸をシカハネと  
 といふあり。あつたカバネと訓。姓と名のハ異こと。玉ひり。訛舛ハ。秋草  
 姓名部。論を。ゆ。今按。カバネ尸字を書。後人の  
 所為。姓の和訓。のハ。骨。續紀。十  
 孝謙紀。天平勝寶三年。二月己卯。雀部朝臣真人ケ上疏。骨  
 名と書。新撰姓氏錄の序中。氏骨と書。骨字。氏字。かの訓。こを義訓。正。姓の字訓。景行紀。美濃國造名ハ神骨と

の者。四年春二月。神骨ハ人の名。姓の訓義を釋く證據。姓と神骨といふ。天朝の萬姓ハ神の御名より起。又神世の職名をも取。姓とし賜へられ。子孫ハ傳へ。譬。人死。の形體ハ土よ。骨ハ  
 勿不遺。姓ハその祖神の骨。姓と神骨といふ。又髮骨の義  
 とも。死。髮も亦骨。の。故。姓ハ尸字を書。後人の  
 所為。又漢字の。釋。姓ハ氏族と  
 熟。姓ハ族。その義。天子賜。命。氏。諸侯命。族。是上古の制  
 度。姓氏の淵源。斑固白虎通。論。明。王世貞宛委餘編十二  
 四部稿。千家姓。輯錄。又。氏族の沿革。由来。辯。正字通。姓の  
 百六十七。下。書。禹貢。毛詩。左傳。前後漢書。唐書。引。氏の下。漢書。說文。風俗  
 通。六書。故。引。詳。釋。姓ハ氏の差別。定。畢竟。秦漢以來。萬姓ハ  
 隨。姓の外。氏ハ。氏の外。姓ハ。本邦の姓氏。との義。異。か。引。

要わ。秦漢以来の人此姓氏ハこの土の苗字とせしめられ。天朝ハ姓と氏の差別  
 正あり。於於朝廷より賜らるる。氏ハ私に改まるるあり。然れ將一字の損益も上表  
 あり。請あり。免許を歴されば自由な。多治比と丹墀と。大枝と。亦是上古の制度に  
 六七百年以降ハ苗字といふの由來つ。氏と苗字と混雜し。姓を唱ふといふ。此ハ  
 姓氏ハありともなれが如し。あつたはあつても。清姓氏の平記とも。稀中を姓の記あり。  
 そハ無姓者某と書く。三代實錄。四十九仁。和二年冬十月の條下云。三日戊  
 午。勅。无姓者其名。清實賜姓。滋水朝臣。貫右京。一條。こも。あり。  
 清實元來姓あり。わ。十。今年以前。罪あり。屬籍を削ら。その身庶人。  
 あり。一。ハ。姓氏ハ。この日賜り。滋水の氏。朝臣ハ。姓。又。聞見の隨記録。さ。よ。  
 姓氏の。れ。ら。り。の。不知。姓。某。と。書。く。と。あり。中。右。記。上。大。治。五。年。の。條。廿。二。日。云。云。  
 常陸清原。近宗。安房。不知。姓。實信。云。云。是。あり。右。よ。ん。を。さ。る。清原ハ  
 氏。之。清原氏ハ。真人の。姓。あり。この。時。世。ハ。苗字。を。唱。ふ。り。の。も。多。く。な。り。一。ハ。

氏の唱。姓を省く。恒は。の。愚意。かくの。如く。われ。も。官。祿。あり。の。及。家。譜。  
 連綿。と。し。て。心。の。り。の。の。わ。れ。ハ。姓。を。書。く。と。ハ。憚。る。べ。し。庶。人。ハ。昔。も。姓。を。又。按。考。に。  
 拾芥。鈔。中。卷。無。尸。姓。と。題。し。る。五。十。六。氏。の。中。ハ。天神。地。祇。天。孫。と。ハ。姓。あり。  
 あり。ゆ。り。と。ハ。實。熙。公。の。り。あり。姓氏。録。の。神。系。を。見。損。一。玉。を。汝。何。と。れ。ハ。姓氏。  
 録。ハ。神。別。と。題。し。る。神。世。より。別。する。姓氏。あり。と。ハ。神。別。中。ハ。天神。より。別。れる。あり。  
 地。祇。より。別。する。あり。天。孫。より。別。れる。あり。これ。を。亦。分。人。為。よ。卷。十。一。左。京。神。  
 天神。藤原。朝。臣。云。云。大。中。臣。朝。臣。云。云。卷。十。二。左。京。神。天。  
 神。大。伴。宿。祢。云。云。佐。伯。宿。祢。云。云。同。卷。天。孫。出。雲。宿。祢。  
 云。云。入。間。宿。祢。云。云。卷。十。六。地。祇。石。邊。公。云。云。狗。入。野。云。  
 云。卷。十。七。地。祇。吉。野。連。云。云。大。神。朝。臣。云。云。と。録。し。る。こ。の。外。ハ。  
 天神。地。祇。天。孫。と。ハ。姓氏。あり。と。と。さ。む。と。姓。ハ。異。あり。の。れ。よ。を。さ。ま。い。と。  
 天神。地。祇。天。孫。と。ハ。姓。あり。と。見。玉。ひ。ハ。ち。く。千。慮。の。一。失。あり。を。さ。む。べ。く。ん。又。按。

玄同放言卷三ノ上 〇無姓氏天神地祇天孫 仙鶴堂梓

中略。平氏ハ軍書に記せり。桓武の皇子葛原親王の子孫あり。桓武天皇男一品式部卿葛原親王、一男、大守、頭、從四位下、高棟王。天長二年閏七月、賜平朝臣、姓、貫、左、京、真、觀、九、年、五、月、至、大、納、言、正、之、位、薨、六、十、四、歲、後、高、棟、朝、臣、弟、無、位、高、見、王、男、高、望、王、亦、賜、姓、平、朝、臣、是、以、下、諸、平、朝、臣、之、中、高、望、朝、臣、の、後、世、に、あ、り、つ、る、の、多、く、累、世、軍、功、あ、り、世、俗、に、な、り、て、平、家、と、い、は、る、葛、原、の、後、裔、に、限、ら、ず、と、せ、り、の、際、

考證也。平氏は數家あり。初、源氏ハ數流あり。その祖皇を掲げ、桓武、仁明、文德、光孝の四帝是あり。延長八年六月廿六日、藤原朝臣清貫卿と俱、清涼殿ゆく震死せし。右中辨内藏頭平希世朝臣ハ、仁明天皇の御子本康親王の男雅望王の子に於て、親王の子行忠王の男佐幹王也。平朝臣の姓を賜ひ、見皇統紹運錄及諸家文德天皇の御子、惟彦親王の孫寧幹王も平朝臣の姓を賜ひ、平寧幹ハ、惟世王也。世にあり、歌人平朝臣兼盛ハ、光孝天皇の御子、是忠親王の男興我王の孫、兼盛也。篤行の男也。三代實錄卷四十九、光孝天皇紀、仁和二、年、秋、七、月、十五、日、壬、辰、山、城、守、從、五、位、上、與、我、王、男、安、平、篤、行、有、村、内、行、繁、等、五、人、あ、の、三、家、ハ、桓、武、以、外、の、平、氏、に、あ、り、つ、る、の、多、く、平、氏、ハ、桓、武、の、賜、姓、平、朝、臣、也。

新撰姓氏録、子正躬王の男諸姪十五人、紀貞觀四年夏四月、廿日、戊、午、勅、參、議、正、四、位、下、行、彈、正、大、弼、正、躬、王、男、散、位、從、五位、下、住、世、王、元、位、繼、世、王、基、世、王、家、世、王、益、世、王、是、世、王、

玄同放言卷三、上  
 〇大神平氏  
 仙鶴堂梓

經世王尚世王行世王故從四位上正行王男高  
王故從四位下雄風王男定攝門王賜姓平朝臣  
是正朝臣請除非女所育男兒皆賜姓平朝臣亦  
朝臣請除非女所育男兒皆賜姓平朝臣亦復諸姪  
之同預於此矣賀陽親王葛原親王皇子朝臣亦  
觀王賜姓平朝臣賀陽親王之左京人辛卯仲野  
親王孫茂世子二人好風貞文同書卷廿六貞觀十  
五位上守刑部卿兼行加賀守茂貞文二人疏請  
下好風等姓曰云云代望伴好風貞文二人賜姓  
許已無位高平王賜姓平朝臣贈一品賀陽親王  
癸巳親王孫正行王之子高平賀陽親王之孫紫  
同書卷四十四元慶二年十二月廿五日丙戌無  
姓平朝臣二品賀陽親王男從四位上利基王之  
雄風王之男平朝臣定相の弟有相王同書卷三  
京人文章生無位有相王賜姓平朝臣仲野親王  
從五位下越中平朝臣定相の弟也仲野親王之  
王賜姓平朝臣仲野親王孫從四位上已無位遂良  
賜姓平朝臣仲野親王孫從四位上已無位遂良

親王之裔安典王同書卷四十七光孝紀仁和元年二月八日  
親王之後從四位大凡この諸平葛原親王の子孫あり  
上輔世王之也大凡この諸平葛原親王の子孫あり  
入道相國淨海及北條氏織田氏兵馬の權を執る海内を武断せし  
この平氏の多かりも均のつらなる勢ひあり萬姓の中その文字は優美なる源平  
兩朝臣は、此れなり。平朝臣ハ平安宮の平をとり、藤原氏中、鎌足公此  
子孫ありあり。藤原朝臣弟貞卿是なり。續紀四、廢帝紀、天平寶  
字七年、冬十月丙戌、參議禮部卿、從三位、藤原朝臣弟貞亮  
弟貞着、平城朝左大臣、長屋王子也。天平元年、長屋王自盡  
其男從四位下膳夫王無位桑田王葛木王鈎取王皆經時  
安宿王黃文王山背王并女教勝後合從坐以藤原太政大  
臣之女所生特賜不死勝寶八歲安宿王黃文王謀反山背  
王陰上其變高野天皇嘉之賜姓藤原朝臣名弟貞なり

玄同放言卷三ノ上  
藤原氏  
仙鶴堂梓

弟貞卿の藤原氏あり。母氏の姓あり。あま皇別の藤氏といふ。源氏ハ  
 嵯峨天皇よりあり。文徳。清和。光孝。宇多。醍醐。村上。花山。三條の數流あり。  
 あまもども中葉より清和の一流紛負あり。これ亦あまの威徳あり。源氏ハ  
 與天子同源といふ義を取。命せられしとす。北史。第六卷。列傳。第十  
 源賀傳云。源賀。西平樂郡人。私署河西王。流潏傳。檀之子也。  
 云云。太武素聞其名。及見器其機辯。賜爵西平侯。謂曰。卿與  
 朕同源。因事分姓。今可為源氏といふ。又按。小  
 續紀。二十。聖武紀。天平八年。十一月丙戌。從三位葛城王從四  
 位上佐為王等。請姓表曰。賜姓命氏。或真人。或朝臣。源始。王  
 家流。終臣氏。同書。十。孝謙紀。天平勝寶三年。二月己卯。典膳  
 正六位下。崔部朝臣真人等。請改其祖巨勢大臣為崔部  
 大臣。疏曰。遂骨名之緒。永為無源之氏。望請云云。あまの

姓源の故事と取。使はよ。三代實錄。陽成紀。元慶八年。二月廿三日の叙位の  
 紛ハ。わ。續日本後紀第十七  
 卷。藤原朝臣藤原。亦この類。清和。嵯峨。宇多。村上。の源。俗小  
 知られる多あり。あま渡邊。佐木。赤松等。影軍書。見れ。源氏ハ。皇子。ふ  
 必命。花山。三條以後。あま。考。柿本氏。國史。よ  
 見れ。あま。人麻呂ハ。漏。只その考。据。き。あま。萬葉集の。これ  
 時。世。淨御原の朝。天武。あま。藤原宮の季文武。遠。あま。平城の朝。元明。  
 暨。あま。萬葉集第二。あま。宇比麻奈備。上。あま。柿本氏ハ。新  
 撰。姓。氏。錄。第七。卷。大。天足彦。國押人。命。之後也。敏達天皇。  
 御世。依家門。有。柳樹。為。材本。臣。と。初。ハ。臣。の。姓。あり。天武  
 天皇。十五年。十一月。戊申朔。大。三輪。君。等。五十一。氏。と。朝。臣。の  
 姓。を。賜。あま。書。紀。十。卷。九。あま。柿本氏。の。國史。見。あま。檢。あま。  
 天武紀。小。錦。上。冠。位。也。柿本。臣。後。見。二十。年。十。續紀。元明紀。に。

玄同放言卷三ノ上

〇源氏柿本氏

仙鶴堂梓







同大田部連牛養。同守部連牛養。續武紀十四。土師宿祢牛勝。同紀朝臣牛養。廢帝紀春日連牛養。同寶字四年五月丙申賜姓春弓削宿祢牛養。同二牛養牛勝。同訓。其あはれ類を連載する。この他藤原朝臣鷹養。續武紀三。坂上忌寸天養。同帝忍海原連魚養。同武紀九。あり。この類あはれ。老子老コ大人ナト。わぶ。以名も多かり。水連老。書紀卷廿。間人連老。同紀臣大人。同廿七。三輪君子首。同武紀八。羽田公大人。同之。子大神君子首。同廿九。武平群臣子首。同武紀八。羽田公大人。同之。子大神君子首。同廿九。同武紀。持統紀。按。續紀。卷一。文武田邊史首名。持統紀。又。道公。同武紀。伊美岐老人。蓋同人也。田邊史首名。見文武紀。又。道公。首名。續紀。六。元明紀。同八。元正紀。按。印行。續紀。文武紀。脱。公。賜姓。當。左京。人。遣。唐。史。道。公。廣持。路真人。大人。武紀。朝臣音那。同武紀。宿祢御行妻也。阿倍朝臣首名。同巨勢朝臣。

首名。同武紀。續積朝臣大人。同矢田部老。廢帝紀。五。榎井朝臣。子祖。同仁。紀。大中臣朝臣子老。同村國連子老。同伊勢朝臣。老人。同仁。紀。作。子。老。武紀。未。知。孰。是。多。文。室。真人。子老。同。同。四。十。相。武。紀。石川朝臣。七名。同。四。十。相。武。紀。廣井宿祢弟名。後。日本。通。計。大人。十一人。老。七。人。子。祖。一。人。の。他。猶。あ。る。按。考。子。老。孝。德。紀。間。人。連。老。の。下。分。注。し。て。老。此。云。於。諭。と。あ。る。あ。は。れ。と。讀。べ。し。大人。あ。は。れ。と。讀。べ。し。印。行。の。書。紀。及。續。紀。よ。大人。と。ウ。シ。老人。と。オ。キ。ナ。ヒ。ト。と。備。訓。さ。ら。た。る。首。名。音。那。し。名。弟。名。と。於。大人。の。假。字。之。老人。あ。は。れ。と。讀。べ。し。翁。と。書。さ。る。名。あ。は。れ。ば。是。を。も。と。と。讀。べ。し。子。首。ハ。小。老。の。假。字。あ。は。れ。ば。子。老。と。讀。べ。し。あ。は。れ。と。讀。べ。し。首。名。を。大人。ノ。假。字。と。す。姓。の。首。を。お。ほ。と。と。讀。ま。す。り。ほ。と。省。き。名字。を。加。く。お。ほ。と。と。訓。ま。す。あ。の。時。世。ハ。俗。よ。り。萬。葉。假。名。の。行。ま。と。り。て。人名。異。字。同。訓。の。ゆ。え。多。し。且。假。名。遣。ひ。の。ゆ。え。と。ん。ん。と。天。武。紀。下。忌。部。首。仙鶴堂梓

女同放言卷三ノ上

〇同名異人

仙鶴堂梓

中ノカスレハ... 假字アリ... 大貳、小野朝臣... 沙弥麻呂... 〇十七

六人あり佐伯宿禰沙弥麻呂... 武土師連沙弥麻呂... 忌寸沙弥麻呂... 入鹿も同名四人あり...

朝臣入鹿麻呂... 鹿も亦二人あり... 蝦夷も亦二人あり... 守屋も亦二人あり...

臣蝦夷持統... 屋下杜屋守屋の假字... 芳續紀光仁紀云... 天應元年五月甲戌...

伊勢國言鈴鹿関城... 其聲如以木... 後世... 河内馬養首押勝...

嫌忌の甚し... 藤原惠美朝臣押勝... 忍勝同訓... 朝臣清麻呂...

石川朝臣清麻呂... 後紀桓之中和氣氏の婦幼中... 亦二人あり小治田朝臣宅持...

中も同名あり... 池田朝臣黑主... 女同書五... 臣猿書明紀十九...

臣猿書明紀十九... 柿本朝臣猿... 仙鶴堂梓

玄同放言卷三ノ上

〇同名異人

仙鶴堂梓

三人あり。猿丸大夫がり未詳。一説は柿本朝臣後。是との他土蜘蛛打後。景行紀七。

紀朝臣猿取。朝臣田上之祖。父也。あり神紀。猿田彦神。猿女君の。

貉也。同名あり。石川朝臣虫名。天武刑部直虫名。光仁この他。

仁明天皇の嘉祥二年七月廿九日の券書。辛國虫名。女録。上古日。雷。ツカ。

中も同名あり。小子部雷。書紀十四。雄略紀。雷。初。名。螺。贏。七年。秋。

神蛇。以。献。之。于。時。雷。建。雄。皇。使。螺。贏。捉。之。岳。神。螺。贏。乃。捉。

懼。而。避。諸。安。殿。因。改。螺。贏。名。為。雷。坂。田。公。雷。同。武。紀。九。正月。キ。

中も同名あり。中臣連正月。書紀二十。正月王。仁。又。作。牟。都。岐。王。光。

武紀。桓。あ。の。他。萬葉集第十六。大舍人。巨勢朝臣豊人。字。正月麻呂。

と。の。者。兄。を。う。虫。と。し。て。名。と。せ。り。此。多。る。中。に。粟。田。臣。飯。虫。書。紀。廿。五。

阿倍朝臣搜虫。續紀十一。ハ。の。名。雅。致。ま。わ。り。ね。も。意。味。あ。り。ろ。孔子。

家語。執。轡。の。保。蟲。十。保。蟲。三。百。有。六。長。より。出。る。を。之。の。他。縣。主。飯。粒。書。

十。八。安。東。漢。氏。直。獺。兒。同。十。九。舍。人。造。獺。虫。同。廿。九。あり。右。の。記。

意。や。く。名。つ。け。る。な。り。福。草。也。中。も。同。名。多。り。葛。城。福。草。書。紀。廿。五。神。社。

福。草。同。是。あり。鯨。也。中。も。同。名。多。り。大。伴。連。鯨。書。紀。廿。三。河。内。直。

鯨。天。智。紀。七。民。直。鯨。天。武。紀。八。廬。井。連。鯨。同。粟。田。朝。臣。鯨。續。日。本。後。

大。伴。宿。祢。鯨。同。刑。部。造。真。鯨。七。清。和。紀。鮪。也。亦。三。人。あり。八。口。

采。女。鮪。女。書。紀。廿。三。物。部。朴。井。連。鮪。同。廿。五。吉。士。小。鮪。同。廿。

智。あ。の。他。萬葉集第十六。土師宿祢水通。字。志。婢。麻。呂。と。の。者。を。え。う。

この志婢も鮪の假名中々あり。鮪考。堅魚。カ。ツ。と。の。名。と。せ。り。右。上。朝。臣。

勝。雄。續。武。紀。十。一。河。原。毗。登。堅。魚。同。廿。三。孝。縣。天。養。宿。祢。堅。魚。麻。呂。

同。武。紀。七。安。倍。朝。臣。堅。魚。殘。我。大。皇。紀。廿。二。大。伴。宿。祢。雄。堅。魚。又。

小。堅。魚。殘。我。伴。宿。祢。真。堅。魚。九。天。長。中。人。也。この他。豊岡。宿。祢。

真。黑。麻。呂。續。後。二。の。真。黑。麻。呂。の。真。黑。目。堅。魚。の。も。あ。り。人。狄。目。黑。

堅魚の名目。東鑑。ま。え。う。鯛。と。の。名。と。せ。り。凡。直。黑。鯛。續。後。廿。九。

大中臣朝臣鯛取殘缺後紀十七安倍朝臣鯛繼續後紀七高道宿祢鯛釣同之他鯛身命姓氏錄小鯛王萬葉集又仁明天皇の嘉祥二年十一月廿日賣買家地の券書秦忌寸鯛女好古日

鯛魚ナ字亦同名あり吉備品運部雄卿應神紀十難波玉造部錄上卷鯛魚ナ字亦同名あり同十五鴨朝臣子卿續紀十八尾興欽明紀十九蘇我臣興志同廿五尾張宿祢乎己志續紀四

明大神朝臣興志同六元連男事志同九元あまの名志續紀四假字之鯛魚コ字亦同名あり塩屋鯛魚コ書紀廿五孝德紀分注

堺部宿祢鯛魚同廿九鯖サ字亦二あり紀朝臣鯖麻呂續紀八桓武田口朝臣佐波主續後紀四之他林宿祢娑婆殘缺後紀五

あま娑婆國の娑婆の之餘魚をと名をせよの衆夥あり故奉連あ穴按び魚陰中の陽あまのとむむ百官の名多く取り方ありし

蠡海集類物曰水族乃陰中之陽何以知其然云云魚乃陰物而得陽氣多故腹内生將是以能浮躍魚日晝夜不眠

因知其為陰物而得陽多者也とりあまのとり大の譬人主の陽之廢民陰之百官陰中の陽加之諸魚天神御子仕まり故事ありし

古事記上天津日高日子番能迹迹藝命天降おろ坐紫日向之高千穂之久布流多氣坐せ底度久御魂都夫多

都御魂沫佐久御魂等後田毗古命送て還到下條下云乃悉追聚鱒廣物鱒挾物以問言汝者天神御子仕奉耶之時

諸魚皆仕奉白之中云云後生の人臣名を鱒介取りの多かりし

あまの縁の度ありし又按きし同書大穴牟遲神欺きく八十命作活云云とり鱒介とり名とりしとり又按きしとり

都宿祢腹赤類聚国史九十九叙位と粟宿祢鱒麻呂三代實錄六  
 その名を等類とせん歟一説は腹赤ハ鱒とて今俗ハ鮭の子を腹赤子と云  
 又一説ハ腹赤ハ地名あり肥後國王名郡長渚ハ腹赤濱ありこれ海濱ゆく  
 漁取魚と久ハ倍ハ腹赤ハ即久ハ倍のゆかりとの濱より久ハ倍を得たりと  
 七ののまど孰ハ是と考ル江家次第卷之一腹赤奏の條下を考之儒佛  
 名辨とく名とを宮首阿弥陀書紀廿八我閉連阿弥陀續紀八  
 衣縫造孔子武同文文忌寸釋加武同文大宅朝臣君同  
 二十三船連夫子同十九阿倍朝臣子路同廿五縣犬養宿  
 祢老子同卅四等ありあまハ兒戲ハ近ハこの故ハ高野天皇神  
 護景雲二年五月丙午詔曰入國問諱先聞有之況從今何  
 曾無避見諸司入奏名籍或以國主國繼名向朝臣名可不  
 寒心或取真人朝臣立字以氏作字是近冒姓復用佛菩薩

及聖賢之號每經聞見不安于懷自今以後誼勿更然昔里  
 名勝母曾子不入其如此等類有先著者即改換務從禮典  
 見續紀九禁々をむひとありるを亦後圓融院の御宇ハ藤原朝臣  
 伊尹公日本紀六あり一條院の御宇ハ藤原朝臣伊周卿同書あり  
 伊周ハ伊尹周公且と一字つ取玉ひ是あり先藤原諸葛三代實錄あり漢の孔  
 明復姓を取り又花山の朝ハ大江匡衡あり漢の匡衡を取るあまくくこの類ハ名  
 遠降りく一條院の御宇ハ江口の遊女小觀音今様あり高倉院の御宇ハ  
 加賀の佛平家物語あり山城國淀河漁者弥陀二郎山州名迹あり里見の  
 家臣原田大佛之介菅野神五郎本朝三ありこれらの姓名軍記野衆  
 中猶あまくく徒然草八十二段連歌ある法師何阿弥陀佛十六夜日記を綴りく係  
 藤原為相卿の女義阿佛尼甲陽軍鑑武田孫六入道を  
 宿祢中庸清和紀三代實錄あり持ま甚しとせめらるを長谷部文選續紀廿九伴  
 宿祢中庸清和紀三代實錄あり持ま甚しとせめらるを長谷部文選續紀廿九伴

玄同披言卷三ノ上

儒佛名辨取書名原為名

仙鶴堂梓







中も罪人の族を照し。惡姓を賜ひしなり。三國の季子。吳の孫秀。晉の南頓  
公宗梁の豫章王綜。武陵王紀。隋の楊玄感。ホミルその人あり。三國志  
吳志。宗室傳。第孫匡傳云。泰子秀。泰孫匡。子秀也。為前將軍。夏  
口督。秀公室。至親。握兵在外。皓。孫皓。意不能平。建衡三年。皓  
遣何定將五千人。至夏口。獵。先是。民間食言。秀當見圖而定  
遠。獵。秀遂驚。夜將妻子親兵數百人奔晉。以秀為驃騎將軍。  
儀同三司。封會稽公。江表傳云。皓大怒。追改秀姓曰厲。晉書  
列傳。第。九。汝南王亮傳附云。宗公。南頓字延祚。元康中。封南  
頓縣侯。尋進爵為公。云云。感和初。御史中丞鍾雅劾宗謀反。  
庾亮使右衛將軍趙胤收之。宗以兵距戰。為胤所殺。貶其族  
為馬氏。宗。晉室。宗親。司馬。梁書。列傳。第。四。豫章王綜傳云。綜  
字世謙。高祖第二子也。天監三年。封豫章郡王。邑二千戶。五

年云。普通六年。魏將元法僧。以彭城降高祖。乃令綜都督  
眾軍。鎮于彭城。與魏將安豐王元延明相持。高祖以連兵既  
久。慮有釁。生敕綜退軍。綜懼。南歸。則無因。復與寶寅相見。乃  
與數騎。夜奔于延明。魏以為侍中。太尉。高平公。丹陽王。邑七  
千戶。錢云云。綜乃改名纘。字德文。追為齊東昏服。斬衰。於是  
有司奏。削爵土。絕屬籍。改其姓為悖氏。俄有詔。復之。其子直  
為永新侯。邑千戶。同卷。武陵王紀傳云。紀字世詢。高祖第八  
子也。云云。及太清中。侯景亂。紀乃僭號於蜀。改年曰天正。  
云云。將軍樊猛獲紀及第三子圓。滿。俱殺之。於硤口。時年四  
十六。有司奏。請絕其屬籍。世祖許之。賜姓饜饜氏。隋書。列  
傳。第。五。楊玄感傳云。楊玄感云云。諸弟並具梟磔。公卿請改  
玄感姓為梟氏。詔可之。文甚多。不勝。他。南宋。竟陵王。誕有

罪。貶族為留氏（とりのり）。宋書竟陵王誕傳（きやうりやうじやうえんのでん）よる。この類唐（たう）に至る。
   
（たう）あり。餘ハ數（あま）は勝（かち）にむか。天朝（てんてう）もこれの故事（こじ）に擬（な）し玉（たま）ひけり。
   
（たう）年歴（とし）迫（おそ）る降（くだ）る。後鳥羽院の御宇（ごう）に相似（おそ）る事（こと）の初（はつ）めあり。源義經
   
（たう）東鑑（とうかん）文治二年（もんじに）閏七月（にじゅうしちがつ）條（じょう）云（い）義經已（すで）為（な）叛逆人者（たうぎやうじん）亦（また）義經
   
（たう）者（しや）與（よ）殿（でん）三位中將殿（さんじやうでん）良經（らうけい）依（よ）為（な）同名（どうめい）被（ま）改（か）義行（ぎやう）之（の）由（よし）云（い）云（い）同
   
（たう）年（ねん）十一月（じゅういちがつ）條（じょう）云（い）義行（ぎやう）于（に）今（いま）不出（い）來（き）云（い）云（い）大夫（たうふ）屬（ま）入（い）道（だう）申（ま）云（い）義行
   
（たう）者（しや）其（その）訓（しん）能（よ）行（よ）也（なり）能（よ）隱（ひそ）之（の）義（ぎ）也（なり）故（ゆ）于（に）今（いま）不（い）獲（え）之（の）歟（や）如（ごと）此（ごと）事（こと）尤（な）可（べ）
  
（たう）思（し）字（じ）訓（しん）可（よ）憚（おそ）同音（どうおん）依（よ）之（の）猶（な）可（べ）為（な）義經（ぎけい）之（の）由（よし）被（ま）申（ま）攝政家（せつせい）同（どう）年
   
（たう）十一月（じゅういちがつ）九（く）日（にち）條（じょう）云（い）義經亦（また）被（ま）改（か）義頭（ぎだう）名（な）惡（あく）賜（たま）ひ（や）わ（る）當（たう）時（じ）
  
（たう）攝政家（せつせい）の公子（こうし）と（の）名（な）同（どう）訓（しん）と（の）名（な）改（か）ら（る）と（の）名（な）義經（ぎけい）の（の）名（な）
  
（たう）出（い）處（しよ）を考（かう）る（は）佛書（ぶつしよ）より（の）ゆ（ゝ）わ（る）あ（る）維摩詰經（ゐまけつけい）法供養品（ほつぎやうひん）曰（い）依
   
（たう）於（お）智（ち）不（い）依（よ）識（し）依（よ）了（りやう）義經（ぎけい）不（い）依（よ）不（い）了（りやう）義經（ぎけい）注（しゆ）肇（しやう）曰（い）佛所（ぶつしよ）說（しやう）經（けい）自

有（あ）義（ぎ）肯（か）分（ぶん）明（めい）盡（じん）然（ぜん）易（い）了（りやう）者（しや）云（い）云（い）義經（ぎけい）の乳名（にゅうな）を遮那王（しゃなわう）と（の）り（て）遮那（しゃな）
  
（たう）亦（また）梵書（ぼんしよ）より（の）ゆ（ゝ）わ（る）平治物語（へいじものがたり）に（の）ち（て）義經（ぎけい）竊（ひそ）に鞍馬（あま）を去（さ）る（は）陸奥（りくお）へ趣（おも）は（る）
  
（たう）十六歳（じゅうろくさい）のとき初（はつ）東光坊阿闍梨（とうくわうぼうあせり）蓮（れん）忍（にん）が弟子（でし）禅林坊阿闍梨（ぜんりんぼうあせり）覺（かく）日（にち）行童（ぎやうどう）
  
（たう）と（の）り（て）右（みぎ）の經文（けいぶん）を（の）り（て）祖考（そかう）八幡殿（はつぱんでん）頭（かぶ）殿（でん）の諱（なづな）義（ぎ）の字（じ）を取（と）る（は）
  
（たう）熟字（じやくじ）を（の）り（て）み（ぎ）ぐ（る）あ（る）名（な）の（の）あ（る）然（ぜん）む（む）當時（たうじ）法師（はうし）に憑（たも）る（は）潜（ひそ）に熟字（じやくじ）を
   
（たう）擇（たく）し（て）平治物語（へいじものがたり）下（した）牛若（うしわか）奥州（おくしゆ）下向（げかう）の段（たぐ）深拙（ふかす）三郎（さんじやう）光重（みんしゆ）
  
（たう）子（こ）陵助（りやうすけ）頼重（らいしゆ）云（い）云（い）早御元服候（はやごもとんぷくこう）ケル（は）御名（ごな）何（なに）ト問奉（とんぷら）レバ（ば）烏帽子（かぶと）親（おや）モ
   
（たう）ナケレバ（ば）手（て）ヅカラ源九郎（げんくわう）義經（ぎけい）トコ（と）名（な）乘侍（のりざむらい）ト答（こた）テ打連（うちづれ）給（たま）テ云（い）云（い）無益（むえき）の
   
（たう）辨（わ）れ（ば）筆（ふで）の次（つぎ）も（の）呼（よ）ぶ（は）稱呼（せうこ）謬（びやう）為（な）罪人（ざいじん）本朝（ほんてう）文粹（ぶんすい）卷（ま）三（さん）意見（いけん）
  
（たう）延喜十四年（えんぎじゅうしよねん）四月廿八日（しがつにじはちにち）從四位上（じゆうじゐたうしやう）行式部（ぎやうしきぶ）大輔（たうほ）三善朝臣（さんぜんてうしん）
  
（たう）清行（きやうぎやう）意見（いけん）封事（ふうじ）十二箇條（じふにかんじょう）の第四條（だいじよんじょう）給（たま）罪人（ざいじん）伴家持（ばんけあ）越前國（えつぜんこく）云（い）
  
（たう）云（い）山城國（やましろこく）云（い）云（い）河内國（かみ）茨田（あつた）淡川（たんせん）兩郡（りやうぐん）田五十五町（でんごじよ）以（も）克（く）生（せい）

玄同放言卷三ノ上 ○義經称呼訛件 仙鶴堂梓





あり。譯名之制。六史に攷る。書紀に。孝德天皇の大化二年八月  
 癸酉の詔に。あつれどもこの御宇に。嚴密の制度を。あせり。あつれ。

續紀六。元明天皇の和銅七年六月己巳。若帶日子姓。為觸國譯。成務改  
 因居地賜之。と考ふ。これぞ名を譯のちあり。かく。桓武天皇の延暦  
 四年五月丁酉。平城天皇の大同元年七月戊戌。嵯峨天皇の大同  
 四年九月乙巳。淳和天皇の弘仁十四年四月壬子。平城以下。仁明  
 天皇の天長十年七月癸巳。續後紀二。數朝との制度を。上の御名及  
 先帝の御諱。觸る。百官の姓氏。諸國の郡縣及人民の姓名を。改易  
 せ玉ひ。抑平城の朝。元明のちあり。稍漢學。仁明の人時。贈太政  
 漢法。做らせ玉ひ。あつれども異とん。大臣。橋朝臣清友公。嵯峨天皇。皇后。橋朝臣嘉の。為。姓の橋。字。譯せ  
 玉ひ。あつれ。續後紀四。承和二年正月己巳。左京人。左馬寮。權

大。清友。宿禰。真岡。散位。同姓。魚引。等。賜姓。笠。品。宿禰。非其  
 願也。公家。避太政大臣。橋氏之名。耳。同書。九。承和七年。十一  
 月辛巳。勅。橋戸。蝦橋。橋連。伴橋。連。橋守。橋等。六姓。與橋。朝臣  
 相涉。誼。賜。橋。戸。蝦橋。橋連。伴橋。連。橋守。橋。自餘。以橋。字。為。姓  
 之類。亦以。橋。換之。これ。唐。山。名。を。譯。ハ。春秋。左。氏。傳。桓。公  
 六年。九月。その他。史。中。多。く。を。譯。ハ。名。ハ。譯。ハ。姓。ハ。觸。を。譯。ハ。

況。至尊。との。外戚。の。為。譯。玉。あ。つ。れ。和。漢。ハ。例。あ。つ。れ。現。承。和。の。朝。廷。ハ。

外戚。を。愛。敬。も。ま。よ。の。殊。更。あ。つ。れ。清。友。公。の。父。奈。良。麻。呂。宿。禰。公。の。

嫡。子。ハ。孝。謙。の。御。宇。天。平。宝。字。元。年。七。月。ハ。刑。も。つ。れ。承。和。十。年。八。月。辛。未。ハ。從。三  
 位。大。納。言。を。贈。ら。し。十。四。年。十。月。丁。酉。ハ。太。政。大。臣。正。一。位。を。贈。ら。し。詔。曰。

云。云。見。續。後。紀。橋。氏。の。榮。爵。か。り。後。く。も。源。平。藤。原。推。知。へ。て。高。

貴。の。四。姓。と。い。ふ。べ。又。按。ま。る。律。第。七。賊。盜。律。曰。凡。恐。喝。取。人。財。物。

者云云展轉傳言而受財者皆為從坐疏曰假如甲遣乙景  
 傳言於丁恐喝取物五端甲合徒一年半景各徒一年是  
 云云景ハ丙之唐律景に作り世祖の諱を避る天朝ハ丙字を  
 諱ハ丙の理也。あつても當時の儒官あつてつづらういふ人  
 諱ハ似たり世字ハ代ハ代字とてせしめりあつた唐の太宗の諱ハ  
 世民といふより唐朝をて世字を諱ハ甚かりけり。  
 偶談ハむか。天朝の儒官及官僧唐の文書ハ做ひて世と書ハ死を  
 代字をり換ふる多かり流俗こも浸染し今に至り改められも  
 偏ハ假字と見えくあつてよと讀バ論なり先祖代々いふこと  
 代とてその義おぼかりけり家督の子家督の孫その父祖ハ嗣を  
 世といふ兄弟の跡と弟が継或ハ親族の子が継ぎ又他姓の  
 神皇正統紀ハ斟酌せられ外ハ亦多く見らる今に至りハ俗ハ  
 後人より

論われども、江家次第卷十親王宣旨事條下云  
 勘申御名事云云二字不偏諱及唐偏諱抄云世代民人依  
 近太宗諱也。とらる異朝の沙汰あり國人の世字ハ換ふる代  
 とも亦諱せしむ諱といふ近き也。手兒名ハ萬葉集第六山部赤人の  
 歌第九高橋連虫麻呂が歌ハ見れり勝杜鹿郡名即チ葛飾也真々又作間ハ即チ継也  
 一女子ハ前輩の説ハ手兒名ハ東國の方言女子といふ也。證文ハ  
 按はる手兒名ハその女子と名あり。類聚國史百九十四職官部弘仁五  
 年正月丁卯の叙位ハ吉弥侯部豆僅奈といふ者ハ古と僅と通  
 かり手兒名豆僅名ハ同名とらる近し。愚按ハ古の如くあれども  
 其義ハ詳あり。足尾考ハ一。戰國武士志取官名豆こも人のあつた  
 新編東國記卷二曰輩名盛隆其家臣保土原江南が嫡子  
 何某十六歳ニテ武功アリシカバ大和守ト名ツク翌年又比類ナキ働アリ



軍士皆言願屬大樹將軍。大樹將軍偏將偏將小馮異也。為以謙退不伐。敕吏士非交戰受敵。常行諸營。之後每所止舍。諸將並論功。異常獨屏大樹下。故軍中號曰大樹將軍。馮異ハ偏將あり。鎌倉京都の將軍ハ連帥ハ漢朝偏將の號をとり。我連帥よおはるる。ゆゑに讀書の人宜く記多人知るべし。但そのまゝおれど。大樹の相似るあり。大柱直るも。書紀推古紀曰。二十八年冬十月。以砂磔菅檜隈陵上。則城外積土成山。仍每氏科之。建大柱於土山。時倭漢坂上直樹柱。勝之大高。故時人號之曰大柱。直又一個相似る。號あり。清の張廷玉が所云。木下人足。明史傳曰。信長偶出獵。遇一人臥樹下。驚起衝突。執而結之。自言為平秀吉。薩摩州之人。奴雄健。踰捷有口辯。信長悅之。令牧馬。名曰木下。人あつて謬傳は係るといふ。大樹將を良匹とす。○事ハ錯誤

まづ誇貌をも。ヲコモノと。自他の不然を。ヲコガマといふ。常語あれど。誼をのの早。今昔物語卷十二。古今著聞集卷之八。及下學集能藝。嗚呼者と書く。書言字考。人倫ハ西京賦を引く。徑廷者徑廷者と書く。和訓類林遠。徑廷文選。遠己。志。と。り。按る。文選賦。張衡西京賦。曰。望辟篠以徑廷。眇不知其所。反といふ是あり。徑廷ハ嗚呼の義。和訓和訓を推當する。是ハ猶可あり。呂氏春秋。安死篇。多徑庭死。篇曰。曾季孫有喪。孔子往弔之。入門而左。從容也。主人以璣璫。收孔子徑庭。而趨。歷級而上。曰。以室玉。收璽。之。猶暴。中。原也。徑庭。歷級。非禮也。ヲコカマシといふ。曩ハ偶好古日録也。雖然。以救過也。閱せよ。引老學菴筆記云。蜀人見人物之可許者。則曰嗚呼。可鄙者。則曰噫。噫。嗚呼者。此間ノ書ニ古來ヨリ散見ス。俗言。イキスギ者ト云ハ。噫。噫。過ナラムカ。見下。之。卷。と。り。不及の義。ハ往過。嗚呼も亦是と。あつて。按る。三代實錄陽成曰。元慶四年。秋七月廿九日辛酉。



歐人同墨子  
第華下作翰  
宋國魯向編  
作咬人之國

御仁壽殿覽相撲左右近衛府云云右近衛内藏富繼長尾  
米繼善散樂令人大笑所謂馮許人近之矣ヲコノモノをくあよ  
とく、馮許と書く鳥許ハ地の名後漢書列傳第七南蠻傳曰交  
趾之西有嗽人國生首子輒解而食之謂之宜弟味旨則以  
遺其君君喜而賞其父取妻美則讓其兄今鳥許人是也  
とく、便是ヲコノモノの本文この上よりヲコノモノハ蠻夷の愚惡を譬喻せ  
の蜀人の嗚呼と書くハ假借あり

第三十人事

宋陳彭年綽號

今俗妻妾の家政を專あるを譏りて或ハ姐己といひ或ハ九尾狐といふこと似  
くろみ、まろく唐山あり宋元通鑑宋真宗曰天禧元年二月陳彭年  
卒彭年敏給強記好儀制沿革刑名之學然性奸惰時號九  
尾狐是形、まろこの九尾狐二種也山海經大荒中云

云有青丘之國有狐九尾傳太平則出白虎通封禪曰狐九  
尾何狐死首丘不忘本也明安不忘危也必九尾者也九妃  
得其所子孫繁息也於尾者何後當盛也文選類論王褒四子  
講德論曰昔文王應九尾狐而東夷歸周武王獲白魚而諸  
侯同辭とひ九尾狐ハ並ニ瑞獸也山海經南山又曰青丘之  
山云有獸焉其狀如狐而九尾傳即九其音如嬰兒能食  
人食者不蠱嗽其肉令人不逢同書東山又曰鳧麗山云  
云有獸焉其狀如狐而九尾九首虎爪名曰螫姪龍其音  
如嬰兒是食人といひ九尾狐ハ並ニ惡獸也宋朝の人當時陳彭年ハ  
譬喻也これハ狐の又國俗の所云九尾狐ハ三國惡狐傳一名三國  
妖婦傳  
て草子物語より知らる彼惡狐傳ハ原本何人の作を知らず比まて寫本  
より行きたる能樂の殺生石也今ハ何をうつて死天竺斑足太子斑足塚の

玄同放言卷三上

陳彭年

仙鶴堂梓

神、大唐中より幽王の后褒姒と現れ、我朝を去り鳥羽院の玉藻前と云ふ事と謡ふと父母の事、次あり作りぬ事、これどもあり、謡曲の作者は始に之をわく、アケギヤツ犬追物之下云、昔西域有斑足王、其夫人惡虐過人、勸王取千人之首、其後出生支那國、為周幽王后、其名曰褒姒、滅國惑人、死後出生于日本、近衛院御宇、辨玉藻前、傷人無極、後化成白狐、害人惟多、時俗欲驅之、先射走犬、以試其射、騎白狐知之、化而成石、飛禽走獸、當其殺氣者、莫不立斃、故謂之殺生石、于今在下野那須原也、犬追物始于此矣、但聽之古老之口號、雖不知、本説且載之而已、と云、下学集ハ文安元年編集あり、このより東覽破衲ハシ何人ハシの自序ハシに、又安元年ヨリ至文政二年無慮三百七十二年この時既に故老の口碑ハシに因ると云、この物語のゆゑと推知べし、又鎌倉志四卷に載られ、海藏寺辨の閑山源翁

禪師傳也。康治帝即近衛院の寵妃玉藻前との事と見えたり、皆當時の

小説を取らざる或説は玉藻前の物語ハ時の人美福門院講得子鳥と譏

あうさんそ、その妃子、近衛院の寵妃玉藻前との事と見えたり、

何ホ本づくともある、保元の内乱ハ、女謁内奏より起まり、これより、彼

門院を傾けしむるは、於、當時もさあけめと見え、さうして三國惡狐傳ハ

おとく後人のゆゑ成るもの、ゆゑく傳へし草子物語ハ、あは、下学集及能樂

殺生石の斑足太子の事ハ、仁王經よりゆゑ、佛説仁王護國般若波羅

蜜經、護國品第五曰、尔時佛告大王、昔有天羅國有一太

子、欲登王位、一名斑足太子、為外道羅陀師、受教應取千王

頭、以祭塚、神自登其位、已得九百九十九王、一王即北行

萬里、即得一王、名曰普明王、其普明王白斑足王言願聽、一

日、飲食沙門、頂禮三寶、其斑足王許之、一日時、普明王即依

玄同放言卷三、上 〇玉藻前斑足 仙鶴堂梓

過去七佛法請百法師敷百高座一日一時講說般若波羅蜜八千億偈竟其第一法師為普明王說偈言云云爾時法師說此偈已時普明王眷屬得法眼空王自證得虛空等定聞法悟解還至天羅國斑足王所眾中即告九百九十九王言就命時到人人皆應誦過去七佛仁王問般若波羅蜜中偈句時斑足王問諸王言皆誦何法時普明王即以上偈答王王聞是法得空三昧九百九十九王亦聞法已皆證三空門定時斑足王極大喜告諸王言我為外道邪師所誤非君等過汝可還本國各各請法師講說般若波羅蜜名味句時斑足王以國付弟出家為道證無生法忍如十王地中說五千國王常誦是經現世生報大王十六大國王脩護國之法法應如是とむるなりこの經文中は狐妖の事あり。褒姒ハ史記四卷

周本紀より見るなり人の多きあり且文多き載る褒姒ハ周厲王の時積小藏を神龍の祭を發せしむとの神龍の精液也。祭化して玄龜を産み王宮に童女これに遭く孕たるとの子即褒姒なりと有りこの事國語六鄭語より太史公取く史記より収むる顛末の如くあるは物語ありとあり玉藻前の物語の作者國語及史記ある褒姒と仁王經ある斑足王の事を撮合して狐妖の怪談成るなりこの物語は周の褒姒と殷の妲己と作りかえしハ後人の所為なり。通俗武王軍談は縁より修るべし原彼武王軍談は武王克殷王天下おどりの事也封神演義の譯文あり鍾伯敬が批評せし封神演義ハ全部十六卷題目九十九回紂王女媧宮進香といふ事起り周天子分封列國といふは盡康熙乙亥午月長洲褚人獲學稼雪堂が序ありこの演義小説ハ九尾の狐形を變じし妲己といふ事と面目あり作説あり妲己が事ハ史記卷殷本紀より見ゆ。あつても狐妖の事ありは唯王褒が四子講德論は文王應九尾狐一而

玄同放言卷三ノ上 〇褒姒 仙鶴堂梓





萬歲一日出定寓目河濱遊觀林薄見王諸女相促嬉戲欲  
 界愛起洙著心生誦華宮云云文甚多提要以錄焉同書卷二健  
 婦女誘亂退失神通婦女駕其肩而遊此他梵書仙人墮落婦女者多有  
 吉野川此他梵書仙人墮落婦女者多有壁八萬葉集第十竹取翁逢  
 云云竹取物語竹取物語作為如昔人曉受筆載之雅  
 俗于今口實一書說大和國來目邑有芋洗芝昔久米仙見  
 女洗衣之處也又作五地名諸國乃多來目邑限る  
 云云記之因之記を傳るの土俗の臆説か多かり諾樂の樂師寺の沙門景成  
 日本靈異記久米仙の  
 神仙の事誣乃多來目邑物乃多來目邑如く乃多來目邑何と乃多來目邑天子傳漢武  
 内傳乃多來目邑西王母乃多來目邑神女乃多來目邑天子傳漢武  
 日乃多來目邑上乃多來目邑承乃多來目邑華乃多來目邑殿乃多來目邑齋乃多來目邑忽乃多來目邑有乃多來目邑一乃多來目邑青乃多來目邑鳥乃多來目邑從乃多來目邑西乃多來目邑方乃多來目邑來乃多來目邑集乃多來目邑殿乃多來目邑前乃多來目邑上乃多來目邑問乃多來目邑東乃多來目邑方乃多來目邑朔乃多來目邑朔乃多來目邑日乃多來目邑此乃多來目邑西乃多來目邑王乃多來目邑母乃多來目邑故乃多來目邑

亦乃多來目邑載乃多來目邑神乃多來目邑仙乃多來目邑の乃多來目邑巨乃多來目邑壁乃多來目邑と乃多來目邑也乃多來目邑  
 西山乃多來目邑曰乃多來目邑崑崙乃多來目邑之乃多來目邑丘乃多來目邑云乃多來目邑云乃多來目邑又乃多來目邑西乃多來目邑三乃多來目邑百乃多來目邑五乃多來目邑十乃多來目邑里乃多來目邑曰乃多來目邑玉乃多來目邑山乃多來目邑是乃多來目邑西乃多來目邑王乃多來目邑母乃多來目邑  
 所居也西王母其狀如人豹尾虎齒而善嘯蓬髮載勝是司  
 天之厲及五殘厲災厲也殘大荒西經亦云炎火之山云云有  
 又載勝虎齒豹尾穴處名曰西王母乃多來目邑乃多來目邑西王母乃多來目邑乃多來目邑毛屬乃多來目邑乃多來目邑國名乃多來目邑乃多來目邑爾  
 雅釋地云朔方北西王母曰下謂之壁乃多來目邑乃多來目邑梁の任昉乃多來目邑乃多來目邑述異記乃多來目邑乃多來目邑卷上乃多來目邑乃多來目邑鬼姑神乃多來目邑乃多來目邑記曰乃多來目邑  
 四荒註皆四方昏沆之國次曰極者乃多來目邑乃多來目邑南海小巖山中乃多來目邑乃多來目邑有鬼母能產天地鬼乃多來目邑乃多來目邑一產十鬼朝產之夕食之今蒼梧有鬼姑神乃多來目邑乃多來目邑是虎頭龍足蟒目蛟骨分注云蟒蛇目圓蛟骨連生鮮云此與義楚六帖所云鬼乃多來目邑乃多來目邑子母神一名詞說類卷六乃多來目邑乃多來目邑癸辛雜識外集亦載之乃多來目邑乃多來目邑又邕宜以西南丹諸乃多來目邑乃多來目邑利帝母神相似說類卷六乃多來目邑乃多來目邑癸辛雜識外集亦載之乃多來目邑乃多來目邑又邕宜以西南丹諸乃多來目邑乃多來目邑蠶中穹產絕谷乃多來目邑乃多來目邑獸豈豈橘南谿乃多來目邑乃多來目邑西遊記乃多來目邑乃多來目邑日向國飲肥領乃多來目邑乃多來目邑



ぬふ山入りあり。里へむらむらあり。人間のふらむらむらあり。現無智文盲のふらむらむらあり。

走り去る事ハ壬申の年あり。大和某領の教導荒井學士。教導の為。

同國の村落を巡り一日。彼異人ハ邂逅せし樵夫と云ふを。浪華の友人。

又荒井氏もその事を知り。於癸卯年の十二月。余がふるふらむらむらあり。

地仙をいふもの。この類ハ過ぐる。巖居水飲禽獸と俱あり。幾百年を歴すと

年。戊午八月十二日。役時。年四十一。葬于江。遺稿曰。娶妻無

後者。生涯此同。獨居學仙入山者。未死如不紀鬼。又曰。老而

不足談。故依之。造壽富而不能施人。是以有錢。この言や味ひあり。

前ハ録せし奇譚とも。廣く神仙の説を破らむ。

玄同放言卷之三。上。終。

終



